

## 日本映画への字幕付与を求める意見書

現在、テレビ番組への字幕付与は、総務省（旧郵政省）の作成した指針や予算的な補助によって急速に普及し、字幕付与可能な番組のほぼ 100%に字幕がつけられるという状況になりました。

一方、国内で上映される映画のうち「洋画」についてはほとんど日本語の字幕がついていますが、「邦画」の場合は特別なものを除いて日本語字幕がついていないのが現状です。聴覚障がい者は字幕のない日本映画を楽しむことができません。

昨年、女優の菊地凛子さんがアカデミー賞助演女優賞にノミネートされたことで注目された映画「バベル」は、約 400 人の聴覚障がい者がエキストラとして参加し、日本の若者も多数出演しました。日本で公開される際、日本語場面だけ字幕がつけられていなかったため、聴覚障がい者らが署名運動などで改善を要望、その結果、配給会社は公開する全映画館で日本語場面にも字幕を入れて上映しました。

聴覚障がい者が映画を楽しむためには、せりふだけでなく電話の呼び出し音、動物の声、車の警笛など画面にあらわれない音声情報の文字聴覚化も望まれます。日本映画への字幕付与は、ユニバーサル社会を目指す「情報バリアフリー」の一環として必要不可欠です。

以上のことから、下記の項目について国は早急に実施するよう、強く要望いたします。

### 記

- 1 情報バリアフリー化のため、日本映画や日本語映像ソフトコンテンツへの字幕付与を義務づけること
- 1 だれにでも理解できる字幕付与が行えるよう一定の規格・規定を定めたガイドラインを策定すること
- 1 日本映画への字幕付与が進むよう、財政的支援措置を講じること

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出いたします。

平成20年6月13日

名取市議会議長 佐藤賢祐

内閣総理大臣 殿

総務大臣 殿

財務大臣 殿

文部科学大臣 殿

厚生労働大臣 殿

経済産業大臣 殿

衆議院議長 殿

参議院議長 殿